

# 巻頭言

Ｊネット新会長

## 和久井 博（幸町出身）

なりません。

課題のもうひとつは、今回の合併で新しく仲間になった十三町村の方々を新会員として出来るだけ多くお迎えすることです。現在、上越市の尽力で、十三町村の代表者にお集まり頂き、Ｊネットと話し合いをする場を準備していただいております。

また、Ｊネット会員の持つ優秀かつ多様なスキルを市政や街づくりに生かす「Ｊネット人材バンク」構想も前向きに検討すべき時期にきています。会員の皆様のご協力を得ながら実現に向けて努力したいと考えております。

この会が会員の皆様にとっても、また、上越市にとっても一層有意義で楽しい集まりになるよう、今後とも会の運営に倍旧のご理解とご尽力をお願い申し上げます。

このたび、思いもかけず「ふるさと上越ネットワーク」の会長を仰せつかりました。大変当惑しているといったところが本音です。佐久間初代会長、太田前会長、いずれも日本はもとより、世界にまで名の通った著名人であります。当然、Ｊネット新会長にはこれまでの経緯を踏まえ、それにふさわしい方を会長に選ぶべきで、一般の通念からいっても副会長が会長に昇格するのが順当だと私自身は考えておりました。

ところが、残念ながらことに昨年、今井副会長が亡くなられ、もうひとりの松川副会長は四月に上越市へ転居されてしまいました。

そういう事情で、太田前会長のお勧めもあり、私がお引き受けることになった次第です。すでにルビコンを渡った以上、憎越ながら全力をＪネットに傾注し、新たな活動に取り組んでまいります。

いよいよＪネットも設立されてまもなく十年目

に入ります。この間、多くの活動が実行に移され、毎年の交流会も定着してきました。Ｊネットサロンも常連メンバーが増え、毎回三十人近い方に参加をいただいております。

今後の課題は、上越市から見たときＪネットが果たすべき役割はどのようなものか、ここにあると思います。

これまで、Ｊネットとしては「上越市食料・農業・農村政策審議会」に委員として参加するなど、色々な形で市政に参画してきましたが、更に、ふるさと上越の応援団として、街づくりを支援するためにＪネットは何をなすべきか。

総会でも話が出ましたが、ひとつは上越が誇る産物を出来るだけ普及させることです。しかし、日常生活に欠かせない米や味噌、醤油でも、「上越産」を買おうとすると運賃や手間で問題になりま

